

## 牽牛星中殺

牽牛星と云う星の性情には「実直」「自尊心」「責任感」そして「全体主義」などという意味合いをもっている星です。この前進力も常に周囲の人達とのスピードと同調しながらのう行動力で、その質は「潔癖」という特色もっています。

この星が中殺されている人は、組織そのものを中殺状態に追い込むと云う反逆児になりやすいのです。古来から「平和期の孤児」とか「王家の反逆児」とよばれている星ですが、体制的でありながら精神的にはつねに改革を志向しているのです。

牽牛星がもっている「忠実」と「責任感」という性質が、中殺されてよりいっそう強まりますので、組織や会社などに勤めている人は、その勤め先では普段はもっとも忠実なスタッフです。

ところが状況が変化すると反体制側に移るのです。

たとえば、会社の中で忠実な社員として仕事をし、会社のためを思い批判や提言もしていた人が、ある日、社長交代となったり、会社が合併するという事態がおきたり、あるいは縮小などという改革がありますと、当然それが気にいらぬこと柄などが少なからず出て来るものです。

そうすると、今までの実直さとはうってかわって、同調する人達を率いて飛び出してしまうようなことをする、要素をもっているのです。

これは、一見変身上手なようにみえますが、実は宿命的に改革への志向を秘めていたからなのであります。一度動乱が起きれば「水を得た魚」となるだけのことです。

(もともと牽牛星には「責任感」「自尊心」という意味合いのある星なのですが、中殺されることで、絶えず精神的にジレンマに陥り、不安定になると云う特色が出て来るからでもあります)

女性が牽牛星中殺をもっていますと、多くは夫を尻にしく強妻になります。しかし、夫婦仲が悪いというのではありません。夫唱婦随の反対で婦唱夫随ですと何かと功を奏します。

(この星が中殺されると「夫を尅する」相が出て来ますので、人によっては極端にまで強妻になったり、病的と云って良いほどの「潔癖」性が出てきて、家庭生活が不安定なものになりやすく、夫との離別といった結果を招くこともあります)

牽牛星を人間関係におきかえますと、「正妻」「正夫」です。ですから、牽牛星中殺をもっている人は、つねに離婚の要素をもっているのです。

配偶者に満足するということは、まずありません。それに離婚という事態に際しても躊躇しないのでし。

ただ普段はそのような態度は表に出しませんが、(牽牛星中殺者はそのエネルギー作用によりトラブルの一つもおこしません) 環境の変化がありますと自然に出て来るのです。

たとえば、子供の死亡・夫の転職、転勤・転居などが、環境の変化ですが、離婚と云うのは死別も含ます

また残念なことながら、牽牛星中殺の人の一生は有終の美を飾ることができにくくなります。

中年期まで飛ぶ鳥を落とす勢いでも、定年近くなると運性が大きく落ち込み、周囲の人をトラブルに巻き込んだり、仕事上の問題を起こしたりします。結果としてはうしろ指を指される形で退職していくことになりがちです。人によっては、中年期に大病や事故で天命を落とす事もあります。

(このような現象は、組織や会社などに勤めている人に多く現れる現象なので、家庭にいるご婦人には強くは現われません。しかし、いずれにとっても、中年以降に不幸を背負い込む運命にあります)

古来から算命占星術には、牽牛星中殺をもっている人は「九流の職」につくと大成するという言い伝えがあります。(「九流」というのは、先秦時代の代表的な九つ学派のことで、儒家・道家・陰陽家・法家・名家・墨家・縦横家・雑家・農家をさして「九流」と云いますが、これに小説家を加えて「十家」という言葉もあります)「九流の職」を現代風に置き換えてみますと、学者・医者・弁護士・自由業・商人・美容師・書家・宗教家・そして、占い師・という職業などが「九流の職」にあたるでしょう。